

炎のかけら

教育委員会では、昨年（平成17年）9月から11月にかけて旧長野商店の解体調査を実施しました。旧長野商店は、明治時代に建てられた

木骨石造の店舗と蔵で、市の文化財に指定されています。道道の拡幅工事に伴って移築することになったため、今年度は解体作業を行いました（写真1）。

写真2は、調査の際に旧長野商店の床下から出土した陶器片です。一見すると普通の茶碗のかけらに見えますが、表面はザラザラして、まるでのりで張り付けたように砂粒がこびりついていました。よく観察すると、これは単なる汚れではなく、高温により表面の釉薬が溶けて、砂粒が張り付いたものと分かりました（写真3）。また、一緒に発見されたガラス片には細かいヒビが入り、ところどころ茶色く色が変わっていました。

陶器片などが発見されたのは、床下を掘った際に発見されたオレンジ色の砂の層でした。このオレンジ色の層は、遺跡などで見られるもので、熱によって含まれている鉄分が酸化して変色してできるものです。

熱で表面が溶けた陶器片や焼けて変色した砂の層など、これらはすべて明治27年に店舗部分が建てられる前に火災があったことを示しています。

明治時代の石狩本町地区は火事が多く、長野商店の創業者・長野徳太郎氏は、4回焼け出されたと伝えられています。『石狩町消防百年史』によれば、明治26（1893）年12月9日に親船町の大部分が焼失する火事が起こったとされています。今回発

▶ 写真2 出土した陶器片



見された陶器片は、113年前に長野商店を襲った猛火の証拠となるものです。

さて、解体された旧長野商店は、いま、静かに復元工事が始まる春を待っています。近い将来、建築当初の姿を取り戻した旧長野商店をお見せできることでしょう。

（工藤義衛）

■木骨石造

日本の伝統的な木造建築と西洋の石造建築がミックスした建築法。木造の骨組みに石を銚などで張り付ける。

▶ 写真3 陶器の表面



■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎72-3240

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp